

Weekly Report



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度
国際ロータリーのテーマ
ロータリーは機会の扉を開く
(ROTARY OPENS
OPPORTUNITIES)

2020-21年度
名古屋瑞穂ロータリークラブ
会長のテーマ
「原点に戻ってロータリーを楽しみ、
力を発揮しよう」

創立：1980年(昭和55年)1月10日
会長：湯澤 信雄
幹事：山口 哲司
クラブ広報委員長：鈴木 実
例会日：毎週木曜日 PM12:30～
会場：ビルドン名古屋

事務局：460-0003
名古屋市中区錦1-13-19
名錦ビル7F
TEL：052-211-3803
FAX：052-211-2623
MAIL：2760_nagoya@mizuho-rc.jp
URL：http://www.mizuho-rc.jp/

第1954回例会

～水と衛生月間～
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2021年3月4日(木) 雨 第28回

司会：湯澤勇生会場委員長
斉唱：「君が代」「奉仕の理想」

会長挨拶

湯澤信雄会長

皆さん こんにちは!!そしてお久しぶりです。お元気でしたか?昨年末より新型コロナウイルスの感染者が急増し、今年1月の半ばには、2回目の緊急事態宣言が発出された事を受け1月、2月は例会をすべて中止としました。その間、会場委員長さんや親睦活動委員長さんをはじめ、その他の委員会や委員の皆さんには、会場の変更やキャンセル等やスピーカーへの連絡などその都度スピーディーに適切な対応をしていただき、ありがとうございました。



さて愛知県におきましては、2月末日をもって緊急事態宣言が解除となりましたが、大村知事により厳重警戒宣言なるものが発令されあと2週間程はリバウンドに充分注意するようにとの事ですので、今日の例会は、食事せずお弁当を持ち帰っていただく方式にしました。この後食事を取らずにすぐクラブフォーラムに入りたいと思います。次週以降の例会につきましては状況を見ながら感染防止対策を徹底し開催していくつもりですので、よろしくお願ひします。

出席報告

渡邊将之出席委員

会員71名 出席53名 (出席計算人数54名) 出席率 82.8%

ニコボックス

渡邊将之ニコボックス委員

- おかげ様で2月12日に無事還暦をむかえることができました。実感は湧きませんが…今後ともよろしくお願ひします。
松田 浩孝さん
- 1月には家内に誕生日のお花ありがとうございました。
渡辺喜代彦さん
- まだまだ大変な日常が続きます。ワクチンに期待したい所です。
関谷 俊征さん
- 1月2日は72才の誕生日でした。コロナのお陰で誕生日の食事は家で行いました。
稲葉 徹さん
- 2月18日は妻の誕生日でした。きれいなお花ありがとうございました。
近藤 雄亮さん
- 2月、家内の誕生日にお祝いのお花をいただき、ありがとうございました。感謝!!
千秋 季頼さん
- 12月24日以来の例会出席です。おくれはせですが「今年もよろしくお願ひ致します。」
伊藤 豪さん

- 皆さんこんにちは!お久しぶりです!世間では相変わらずコロナ騒ぎが続いており、いささかウンザリです。各自が自覚をして一日も早い平穏を祈っております。
野崎 洋二さん
- 毎日暇してます。誰か遊んでください。
松波 恒彦さん
- 皆様にお会い出来て嬉しいです。
内田 久利さん
- 久しぶりの例会が嬉しいです。庭の梅も満開になりました。
森 裕之さん
- 大変ご無沙汰でございます。
大嶽 達郎さん
- 久しぶりのRC嬉しいです。長男が松波さんの弟さんの野球チームにお世話になることになりました。
鈴木 淑久さん
- 久しぶりの例会嬉しいです。
田中 宏さん
- 皆さんお元気でしたか?

湯澤 信雄さん 亀井 直人さん 堀 慎治さん
湯澤 勇生さん 長谷川 隆さん 鳥山 政明さん
村上 学さん 本多 誠之さん 村瀬 俊高さん
新見 光治さん 内藤 晶文さん 杉山 裕一さん
渡邊 将之さん 今川 知也さん

3月お誕生日おめでとう

岩本 成郎さん 伊藤 豪さん 酒井 俊光さん

委員会報告

40周年記念実行委員会

大嶽 達郎副委員長

本日メールボックスに、40周年の記念誌を入れてあります。皆様のご協力により完成致しました。大変遅くなり申し訳ありません。ご高覧頂ければと思います。

幹事報告

山口哲司幹事

- 3月13日(土)から15日(月)は台北延平RCの創立例会へ参加の予定でしたが、コロナ禍により中止といたしました。前日お祝いビデオを撮影しましたので、今月中に先方へ送ります。
- 3月14日(日) 地区大会は、ご案内しておりますが大懇親会は中止となりました。オンサイト及びオンライン共に本会議のみ開催されます。オンサイトご参加者の方には本日受付で名札をお渡ししております。当日、必ずご持参ください。
- 次々週3月18日(木)定款により休会です。
- 現在出欠を取っております4月25日(日)オンライン開催の地区研修協議会ですが、次年度役員及び3年未満の方が出席対象者です。当日ご都合悪い方も、5月31日(月)までは視聴可能です。
- 第2760地区2021年7月にインターアクトクラブ海外派遣研修を予定しておりましたが、国内(鹿児島県の屋久島、知覧)にて7月27日(火)から31日(土)に変更となりました。
- 少し前になりますが、昨年末にて佐藤善乙さんが退会されました。

地区出向者への委嘱状授与

次年度(2021~22年度)地区出向者

近藤 雄亮さん (地区諮問委員会委員) 近藤 茂弘さん (資金推進委員会副委員長)
山口 哲司さん (インターアクト委員会委員) 市岡 正蔵さん (米山記念奨学委員会委員)



米山功労者表彰 ポールハリスフェロー表彰

大和 直樹さん



第4回クラブフォーラム(中間決算と組織)

収入の部：大嶽達郎会計

2020-21年中間決算、メインの箇所を報告します。協力金30万円。新会員が2名ですのでこの金額となります。例会費ですが、会員の他、新会員の方は月割りで頂いています。例会費・親睦にはクリスマスプレゼント代が入っています。米山記念奨学金寄付ですが、新会員の方2名で10万円と大口の方がいらっしゃる所以この金額です。雑収入は、前年度の地区研修協議会の返金分が入っています。当期収入合計は19,787,567円となります。前期繰越収支差額は10,059,091円。合計29,846,658円です。

支出の部

次に支出の部です。ロータリー組織関係では、米山奨学寄付金の44万円ですが、先程の44万円も入っています。地区関係の84万円は米山奨学金として入金がありました。その金額が全額支出となっています。あと地区大会登録料ですが、先程幹事から説明があった通りでございます。例会費ですが、4,391,265円ですが、前期21回中4回休会があったため、安く計上しています。例会費(親睦)は、クリスマス例会の子供用のプレゼント代となっています。次に支出の部IIです。広報が少なくなっていますが、休

会分が減額となっています。委員会活動費の合計が1,097,320円となり、かなりの支出減額となっています。管理費ですが、2,582,499円は、事務局が新しい事務所へ引っ越しましたので、その費用が含まれています。支出IとIIをあわせて、当期支出合計が15,943,738円、予備費0円、当期収支差額3,843,829円、次期繰越収支差額13,902,920円となります。

ニコボックス収支計算書

ニコボックス収支計算ですが、雑収入91,556円、利息とオークションの収入も入っています。ガバナー補佐会計より、232,596円。これはガバナー年度にニコボックス会計からガバナー補佐費用として移した分の余りの金額を計上しております。収入の合計、20,498,530円です。当期支出合計291,930円、当期収支差額7,026,722円、次期繰越収支差額20,026,600円となります。

貸借対照表

続きまして貸借対照表です。敷金ですが、朝日ビルが以前の事務局で、名錦ビルが新しい事務局です。以前の事務局分の敷金が精算されておりませんので、資産として計上しています。ニコボックス関係は、40周年の仮払金ですが、通常本会計からの支出ですが、金額が確定しておりませんのでニコボックスからの仮払いとなっています。負債の部は、未払金1,692,032円はカード支払分の決済金額です。預り金213,094円は事務局員の社会保険料です。合計が40,015,172円となります。

監査報告：稲葉徹会計監査

監査報告をします。令和3年1月19日に名古屋瑞穂RC事務所におきまして大嶽会計、山口幹事、事務局の方と監査を行いました。中間貸借対照表及び中間収支決算書について適正であると認めます。

次年度組織：田中宏副幹事

お手元に配布されています2021~2022年度クラブ役員理事及び委員会構成表をご覧ください。会員のみなさまをそれぞれ各委員会に割り振りました。IACの年次大会が次年度開催されますので、委員の方には実行委員会のメンバーとして対応をいただきたいと思えます。会計監査は引き続き稲葉徹さんをお願いいたします。このような構成で進めて行きたいと思えます。

会長挨拶：湯澤信雄会長

次年度の役員理事及び委員会の構成をご承認いただきたいと思えます。拍手をお願い致します。それでは第4回クラブフォーラムを終わりたいと思えます。ありがとうございました。

例会のご案内

■今週の卓話 3月11日(木)

テーマ：留学の感想
卓話者：米山奨学生
梁辰(リャン チェン)さん

■次週 3月18日(木)

定款により休会

■次々週卓話 3月25日(木)

テーマ：年間活動報告
卓話者：愛知県瑞穂高校IAC

2021～2022年度クラブ役員理事及び委員会構成表

会 長	堀 慎 治	役 員	ク ラ ブ 奉 仕 委 員 長	大 嶽 達 郎	理 事
副 会 長	原 田 敬 生	役 員	職 業 奉 仕 委 員 長	安 井 友 康	理 事
会 長 エ レ ク ト	梅 村 昌 孝	役 員	社 会 奉 仕 委 員 長	松 田 浩 孝②	理 事
直 前 会 長	湯 澤 信 雄	役 員	国 際 奉 仕 委 員 長	鳥 山 政 明②	理 事
幹 事	田 中 宏	役 員	青 少 年 奉 仕 委 員 長	近 藤 茂 弘②	理 事
会 計	鈴 木 淑 久	役 員	会 員 増 強 及 び 維 持 委 員 長	山 口 哲 司	理 事
S ・ A ・ A	関 谷 俊 征	役 員	親 睦 活 動 委 員 長	花 井 芳 太 朗	理 事
副 幹 事	湯 澤 勇 生		R 情 報 ・ 研 修 委 員 長	安 岡 克 明②	理 事
			会 場 委 員 長	本 多 誠 之	理 事
			R 財 団 委 員 長	千 秋 季 頼	理 事
			長 期 ビ ジ ョ ン 委 員 長	松 波 恒 彦⑤	理 事

奉 仕 区 分	委 員 会 名	委 員 長	副 委 員 長	委 員
ク ラ ブ 管 理 運 営	ク ラ ブ 奉 仕	大 嶽 達 郎	本 多 誠 之	花 井 芳 太 朗 村 瀬 俊 高 新 見 光 治 安 岡 克 明
	出 席 ニコボックス	新 見 光 治	広 瀬 弘 幸	今 川 知 也 西 川 徹 也 杉 江 建 亮 渡 邊 将 之 大 和 直 樹
	親 睦 活 動	花 井 芳 太 朗	鈴 木 健 司	北 岡 寿 人 村 上 学 内 藤 晶 文 杉 山 裕 一 鳥 山 政 明
	プ ロ グ ラ ム	村 瀬 俊 高	渡 邊 将 之	今 川 知 也 亀 井 直 人
	R 情 報 ・ 研 修	安 岡 克 明②	星 野 一 郎	平 野 好 道 大 嶽 達 郎 田 中 英 雄
	会 場	本 多 誠 之	近 藤 茂 弘	星 野 一 郎 萩 原 孝 則 岡 部 光 邦 鈴 木 雅 登 鈴 木 実 鈴 木 健 司
会 員 増 強	会 員 増 強 及 び 維 持	山 口 哲 司	鈴 木 淑 久	内 田 久 利 湯 澤 勇 生
広 報	広 報	柳 田 篤 弘	平 安 山 京 太	内 藤 晶 文 岡 部 光 邦 杉 江 建 亮 佐 治 寛 行
奉 仕 プ ロ ジ ェ ク ト	職 業 奉 仕	安 井 友 康	萩 原 孝 則	越 原 一 郎 酒 井 俊 光 鈴 木 圓 三 高 村 博 三
	社 会 奉 仕 環 境 奉 仕	松 田 浩 孝②	入 江 理	岩 田 吉 廣 加 納 裕 宮 崎 信 次 村 上 学 内 藤 晶 文
	青 少 年 奉 仕 RAC・IAC	近 藤 茂 弘②	RAC 北 岡 寿 人 IAC 杉 山 裕 一	岡 部 光 邦 森 恒 夫 鈴 木 伸 一 田 中 政 雄 八 木 沢 幹 夫
	国 際 奉 仕	鳥 山 政 明②	西 川 徹 也 (延 平 班 長)	泉 憲 一 近 藤 雄 亮 野 崎 洋 二 鈴 木 雅 登 大 和 直 樹
	R 財 団	千 秋 季 頼	長 谷 川 隆	天 野 正 明 長 坂 邦 雄 渡 辺 喜 代 彦
	米 山 奨 学	市 岡 正 蔵	森 裕 之	岩 本 成 郎 松 井 善 則
長 期 ビ ジ ョ ン	長 期 ビ ジ ョ ン	松 波 恒 彦⑤	長 瀬 憲 八 郎 稲 葉 徹	伊 藤 豪 岩 田 修 司 鈴 木 淑 久 湯 澤 勇 生 山 口 哲 司
I A C 年 次 大 会 実 行		堀 慎 治	近 藤 茂 弘	大 嶽 達 郎 鈴 木 健 司 杉 山 裕 一

会 計 監 査	稲 葉 徹
---------	-------

第2760地区 出 向 者	近 藤 雄 亮⑨(地区諮問) 山 口 哲 司⑦(インターアクト) 市 岡 正 蔵③(米山奨学) 近 藤 茂 弘③(資金推進)
------------------	---

日 本 ロ ー タ リ ー 出 向 者	近 藤 雄 亮(ロータリー東日本大震災青少年支援連絡協議会(ロータリー希望の風奨学金)委員)
------------------------	--

RI会長エレクトが2021-22年度の会長テーマを発表 「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」

人のために世話をし、奉仕することが最良の生き方。なぜなら、その経験を通じて誰かの人生だけでなく、自分の人生を豊かにできるのだから……。国際ロータリーの次期会長であるシェカール・メータ氏はこう述べ、奉仕プロジェクトへの参加を会員に呼びかけました。

カル Катタ-マハナガル・ロータリークラブ(インド、西ベンガル州)に所属するメータ氏は、ロータリー国際協議会中の2月1日、次期地区ガバナーに向けて2021-22年度の会長テーマ「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」を発表しました。地区ガバナーエレクトを研修するための年次行事である国際協議会は当初、オランダ(米国フロリダ州)で開催予定でしたが、新型コロナウイルス流行のためバーチャル(オンライン)で開催されました。

ロータリーでの奉仕プロジェクトへの参加を通じて自身が人間として成長したことに触れたメータ氏は、その経験を通じてほかの人のニーズに目を向けるようになったと述べました。クラブ入会後まもなく、メータ氏はインドの僻村を支援するプロジェクトに参加しました。

そこで村人たちの状況を目にしたことで、奉仕への決意が固まりました。「同胞たちが抱える苦境を真に理解しました」とメータ氏は語ります。その後も、子どもへの義肢の寄贈、家庭への安全な水と衛生設備の提供、地域の医療施設の改善など、数々の取り組みに参加しました。

「ロータリーが私の心に火をつけました。自分の身の回りを越えたところに目を向け、人類全体を考えるようになりました」とメータ氏。「奉仕が私の生き方となったのです。多くの方々と同じように、“奉仕とは、自分がこの地上に占める空間に対して支払う家賃である”という信条を持つようになりました」

メータ氏は、次期ガバナーに対し、次年度に自らが模範となって導き、測定可能・持続可能なインパクトをもたらす奉仕プロジェクトへの会員の参加意欲を引きだすよう呼びかけました。また、各クラブが「ロータリー奉仕デー」を実施することを求めました。「ガバナーとしての役目が終わるとき、皆さんは、ご自身のリーダーシップ、ご自身がロータリアンとローターアクターに与えたインスピレーションのおかげで、会員による奉仕を通じて世界が前よりもよくなったと感じるはずですよ」

多様性と会員基盤の向上に焦点を当てる

メータ氏は、2021-22年度には会員が女子のエンパワメントに力を注ぎ、教育、リソース、奉仕、機会など、未来の女性リーダーの成功に必要な手段を与えてほしいと述べました。その上で、多様性、公平さ、開放性に対するロータリーの信念を会員が活動の指針とすることが大切であると語りました。

「世界各地で女子は多くの問題に直面しており、リーダーである皆さんは、こうした女子が抱える問題にロータリーが取り組み、それを和らげるように導くことができます」

奉仕を通じて大きなインパクトをもたらすには、ロータリーの会員基盤を広げる必要がある、とメータ氏。全世界の会員数は、過去20年間、約120万人のまま横ばいです。このため、2022年7月1日までに130万人に増やすことを目指して地区で率先して活動するよう、次期ガバナーに呼びかけました。メータ氏の「Each One, Bring One」(みんなが一人を入会させよう)は、今後17カ月間、全会員がロータリーに一人を入会させることを求めるイニシアチブです。

会員基盤を広げながら、ポリオ根絶活動、新型コロナウイルスとの闘い、地域社会への奉仕を続けていくのは野心的な目標であることを認めた上で、「だからこそ皆さんの意欲が駆り立てられるでしょう」とメータ氏。「挑戦に立ち向かうのがロータリアンだからです」

移動手段を提供して母子をサポート

ウガンダのロータリークラブは、母子の健康のプロジェクトを通じて新型コロナウイルスの制限下でも目的意識をもって活動しています。

ウガンダ政府は3月、新型コロナウイルスの感染者数が12件に満たない頃から、厳しいロックダウンや学校閉鎖を実施して迅速に対応しました。この対策により国内でのウイルス拡大が抑えられ、命が守られました。アフリカ大陸では感染者数が100万件に達していた中、ウガンダで8月に報告された件数は1200件、死者は5人のみでした。

しかし、このような対策があっても、失業や移動制限のせいで妊娠中の女性が病院に行けないといった問題が生じました。ロイター通信によると、カンパラに住むある女性は、約2.4キロ離れた病院に行くのに90分かかり、結局女性もお腹の赤ちゃんも死亡するという悲惨な結果となりました。さらに、アドボカシー団体のWomen's Probono Initiativeは、ロックダウン中にほかの女性6人と赤ちゃん2人が命を落としたと報告しています。

カンパラにあるルバガ・ロータリークラブはこの報告を聞き、安全な移動手段を提供するために行動を起こしました。クラブは、カンパラから南西に車で40分ほどの場所にあるKikajjoの住民に医療目的の移動手段を提供するため、救急車を1台寄贈しました。クラブの直前会長であるBetty Mwesigwaさんは、Kikajjoは人口が多く、所得の低い地域だと話します。

「新型コロナウイルス流行中の問題は、ロックダウンの間に多くの母親がクリニックに行けなくなったことです。道端で出産しなければならなかった2人の女性の話を知り、私たちは救急車を寄贈することに決めました」

旅行業に携わるロータリアンが車両1台を提供し、それを救急車仕様に改造しました。クラブは運転手とメンテナンス、乗客のためのマスクの購入資金を集めました。この救急車はロックダウン中に、ケアを必要としていた75人の女性の足となりました。9月にはほとんどの移動制限は解除されたものの、国内での感染者数が1万人、死亡者が96人に達していたことから、ウガンダの人びとは引き続き、できるだけ移動を制限することが求められました。

Mwesigwaさんによると、クラブは交通機関が再開した際に救急車での支援を一度止めましたが、別のかたちでサポートを提供し続けました。無料の歯科・眼科検診、リプロダクティブ・ヘルスカケアを提供する保健イベントを実施したり、カンパラから1時間半ほど北西にあるSumotoの病院に産科病棟を設立する計画を練っています。この地域はかつて戦争によって大きな被害を受けたものの、まったく復興されていない地域です。

「この病院は、出産する女性たちであふれかえっていますが、設備がとても乏しい」とMwesigwaさんは話します。

母子の健康を支援する活動に加え、ルバガ・ロータリークラブは地元の病院に石鹸、ハンドサニタイザー、手洗いのための小さな水タンクを寄贈しました。ウガンダの病院では水が不足しており、そのほかの物資を調達するための政府からの資金が非常に少ない状態です。これに対応するために、多くのロータリークラブが水タンク、マスク、手袋、消毒液、石鹸やその他の物資を寄贈しました。ルバガ・クラブはまた、食料に困っている人たちに物資と資金を提供しました。ロックダウンにより多くの人が食べるものにも困っていたと、Mwesigwaさんは振り返ります。「ある学校の先生は自分の食べ物を子どもたちに分け与えていました」

ルバガ・ロータリークラブは、母子の健康を支える活動を行うウガンダの多くのクラブの一つです。これらの活動は、すでに母子の死亡率が高かったケニア、タンザニア、ウガンダで、新型コロナウイルスの流行によってさらに死亡率が上がったことを受け、ますます重要な取り組みとなりました。

母子の健康を支えるプロジェクトを通じて、クラブは目的意識を持つことができたと言います。

「多くのウガンダ人の命を救うことができ、嬉しく感じています」